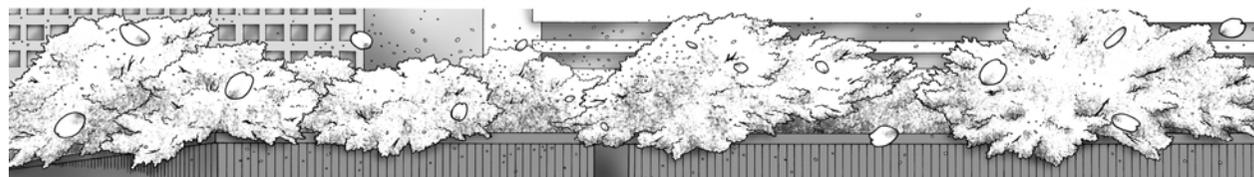
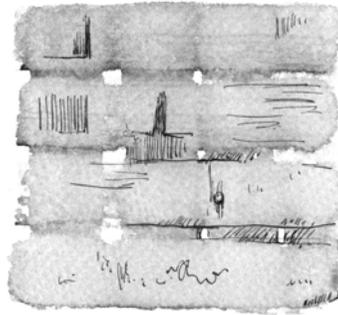
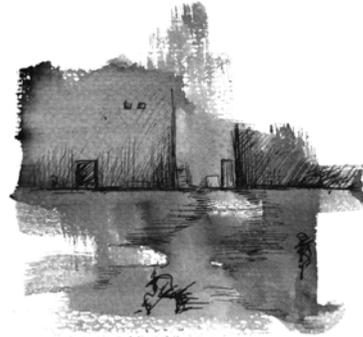
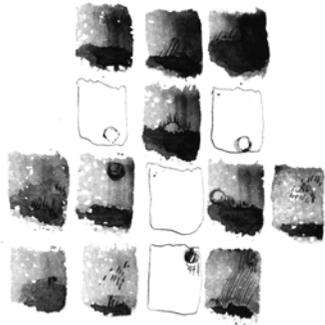
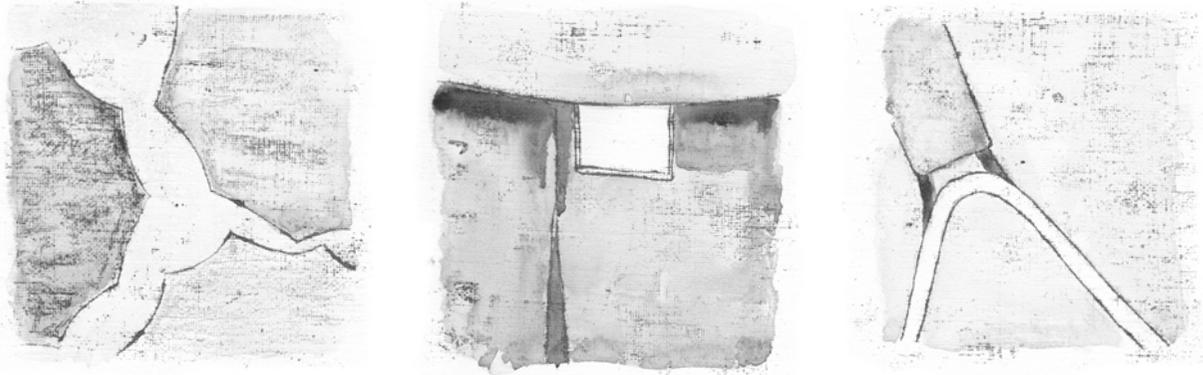


ドローイングサンプル



162 第4章 大阪10大名物園

166

【10大名物⑥】西成「芸術村アトリエ付きマンション群」構想

「西成」と言えばあいらん地区、貧しい人が集まる地区のイメージがあります。しかし、ここにも大きな利点があります。自由に安価に住めることです。その利点を活かしてニューアーティストの集う街に仕立てます。アーティストにふさわしいアトリエ付きマンション群、アート広場、楽団ホールを造るのです。

○労働者の街からアトリエの街へ

西成はかつて日雇い労働者の集まる街でした。大阪には日雇い労働者を需要する工場や作業所が多かったからです。ところが、日本からは製造業が減り、肉体的労働の場が少なくなりました。これに代わるのが知恵と芸術、新しいクリエイティブな活動です。しかし、クリエイターや芸術人が常に経済的に恵まれているわけではありません。きらびやかな文化芸術の輝の裏には大勢の下積みの人々がいるのです。それらの人々がいてこそ新しい芸術・芸能がそびえ立つのです。そうした修行中の人々が住める街、才能を磨く場所があってこそ知恵の時代は発展します。

西成の自由な気分と安価な生活条件は、そんな人々に最適です。そのためにパリやニューヨークにあるようなアトリエ付きマンション群を整備し、アトリエの発表にふさわしいアート広場と楽団ホールを設けます。市民も観光客も自由に安心して行け、安全で明るい街にし、思い切り規模を競合します。この方法は、パリのサンクヌ通りやニューヨークのハリレムが再生に成功したやり方です。

○「大阪部」だからこそできる構想

大阪部構想では西成を特別な自由区にすることができます。区外例でアーティストや芸能人が住みやすい規制の少ない地区にし、アトリエ付きマンションなどの他にも、路上での演奏や深夜の飲食などできる環境を作ります。ただし、犯罪を徹底的に取り締まる警備施設も充実させます。ここから生まれたアトリエが前述の物北巨大キャンパス（162ページ）を飾ることもあるでしょう。10大名物は相互に連携して大阪の、そして日本の発展を支える仕組みです。

「図解 大阪維新とはなにか」
 本文帯イラスト
 2012年7月
 (株)幻冬舎